

○議長 辻本 一夫君

まず1番、長島議員の一般質問を許します。長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

おはようございます。1番、長島です。

議長のお許しをいただきましたので、通告書に従い質問いたします。

件名1です。外部人材、こちらみなと準備室をメインに質問したいと思いますが、外部人材活用の成果と課題の検証について。

芦屋町では、港湾エリアを活用したまちづくりに向けて、芦屋港の利活用とレジャー港化の推進に向けて、令和4年度にみなと準備室を立ち上げ、この外部人材の登用を通じ、企画や構想の段階から取組が進められてきました。この取組は、これまで町が行っていなかった、先進的な観光戦略やエリアマネジメントの考え方を導入するという意味でも、新しい視点や柔軟な発想を政策に取り入れようという姿勢が見られ、大変意義深いものであったと認識しております。

しかしみなと準備室の解散後、外部人材による施策の成果がどのように根づいたのか、またその活動を今後どのように評価し、継承・発展させていくのかについては、町としての明確な検証がなされていないような印象を受けています。

そこで本事業の振り返りと今後の人材活用の在り方について、以下の質問をいたします。

要旨1行きます。みなと準備室による取組の成果について、町としてどのように評価されているのか、お聞きします。

みなと準備室の活動実績と成果に対する町の評価について。レジャー港化における役割、DMO、観光地域づくり法人です。DMO設立支援、飲食・直売機能の導入準備など、具体的な成果とその達成状況をどのように評価しているのか、何が新たに生まれ、何が進んだのか、具体的なものや成果物、客観的に評価がされているのか。解散したみなと準備室の取組に対して、どのような成果があったと認識しているのか。

また準備室の2人のうち1人は任期満了前に退職しましたが、解散後における活動の振り返りや成果検証はどのような形で、町としてまとめられているのか、お伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

執行部の答弁を求めます。芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

みなとを活かした空間形成プロジェクト準備室、通称みなと準備室は、芦屋港活性化推進委員会の答申に基づき、芦屋港レジャー港化において様々な検討を行い、最終的には芦屋海浜公園を含んだ芦屋港周辺の一体管理、エリアマネジメントを行うことを目的として、外部からプロジェ

クトマネージャーとプロジェクトリーダーの計2名を招聘し、令和4年度に設置されました。

設置後は、主に芦屋港周辺の一体管理を行う観光地域づくり法人、DMO設立に向けた検討などに尽力いただき、令和6年4月には、その母体となる一般社団法人を設立することができました。

しかし、芦屋港の各施設が段階的に開業することや、事業内容の見直しなどにより、芦屋港周辺を一体管理する管理運営組織についても再検討することとなったため、令和6年度をもちまして、みなと準備室の設置を終了させていただきました。

成果検証につきましては、事業ごとの業務報告書の確認・検証等により行ってきました。業務の大半がソフト事業であり、施設の開業前である現在においては、成果を具体的に数値等で表すことができていないものも多くありますが、令和4年度から5年度までの2年間で実施いたしました、芦屋港活性化機運醸成事業では、町内事業者への商品開発支援として、延べ14事業者に支援を行い、そのうち5事業者が町の特産品開発支援事業補助金を受けることができました。

また、町民との協働によるワーキングチームを形成し、キャンプやサイクリングなどの観光商品開発のためのワークショップやテストマーケティング、芦屋港を拠点とした町内回遊性向上に向けた市場調査などを行い、今後のレジャー港化におけるにぎわい創出、人材発掘・育成などを検討する際のノウハウを蓄積することができました。

町といたしましては、施設の段階的開業や事業内容の見直しなどにより、管理運営組織についても再検討することとなりましたが、これまでみなと準備室で行ってきた業務内容については、今後の検討材料として十分役立つものであると考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

では、外部人材を活用することの費用対効果について、どのように評価をされましたでしょうか。そちらを検証しなければ、同様の施策を今後はどう生かすかの判断ができないと考えております。報酬や活動費といった支出に対して、町として何を得たのでしょうか。

みなと準備室への投資が正当化できるものだったかといったところをお伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

一般的に外部人材を活用することの費用対効果の検証については、まずその評価基準を明確に

することが重要であり、具体的には外部人材の導入によって得られる成果や効果を定量的に測定し、支出に対するリターンを明らかにする必要があると言われてしています。

みなと準備室に投資した費用は、令和4年度から6年度までの3年間で約4,500万円となっており、財源といたしましては、約600万円が国庫補助であるデジタル田園都市国家構想交付金となっています。

設置目的は、先ほども申しましたが、芦屋港レジャー港化において様々な検討を行い、最終的には、芦屋海浜公園を含んだ芦屋港周辺の一体管理を行うことでした。

まず、芦屋海浜公園を含んだ芦屋港周辺の一体管理を行うことについては、事業内容の見直しなどにより、管理運営組織についても再検討することとなったため、達成できませんでした。

しかし、同時にみなと準備室における様々な検討により、管理運営組織について再検討することが望ましいとの結論に至ったことや、令和7年度からの地域団体等と連携した観光地域づくり法人設立に向けてのノウハウを蓄積できたことなどは、成果であると捉えています。

今後、さらに外部人材の活用に関する費用対効果を検証し、その結果を基に今後の施策に生かしていきたいと考えています。

また、みなと準備室への投資が正当化できるかどうかの判断については、町全体での施策の優先順位やリソース配分が重要となります。芦屋港レジャー港化は町の重要施策であり、みなと準備室への投資の正当性については、今後の事業の進捗状況などを踏まえ、総合的な視点から判断する必要があると考えています。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

では、次に行きます。要旨2です。

外部人材の活用において、地域や町民との連携が十分に図られたかについてお伺いします。

地域づくりにおいて、専門性の高い提案やアイデアが出されたとしても、地域の住民との信頼関係や共に進めていく体制がなければ、実現性を伴わないというのは、多くの自治体で共有されている課題かと思っています。私もそうでしたが、外部人材を起用する場合は、外から来た人間が決めたことという印象が町民側に残ると、せっかくの取組が地元にながらなく、反発や無関心すら生んでしまうことがあると思っています。

そこでお聞きいたします。

みなと準備室の活動において、地域住民との意見交換や機運醸成ワークショップは、どのような頻度・形式で実施されたのか。また何に生かされたのかお伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

芦屋港レジャー港化の事業推進において重要となる、賑わい創出のための機運醸成や、プレイヤーとなる人材の発掘・育成を継続的かつ計画的に実施し、芦屋港や芦屋海浜公園を中心に、町内のネットワーク化及び来訪者の回遊性を創出し、芦屋町の稼ぐ力の向上を目指すことを目的として、令和4年度から5年度までの2年間で、芦屋港活性化機運醸成事業を実施しました。その中で町民との協働により、ビーチサイドアクティビティと食文化に関するワーキングチームを形成しました。

3年間の活動で、ビーチサイドアクティビティに関するワーキングチームでは、芦屋海岸周辺のロケーションを活用したキャンプ場導入を視野に、ワークショップを11回、先進地視察を2回、及び運営のための実証実験、テストマーケティングを2回実施し、ターゲット層や町の食材活用についての方向性を見いだすことができました。

また、食文化に関するワーキングチームでは、レジャー港化の周知や町内回遊性などを視野に、名物食の実現に向け、ワークショップを11回、及びアンケート調査を1回実施し、多くの町内飲食店関係者を巻き込むとともに、メンバーのマーケティング知識を深めることにつなげることができました。

各ワーキングチームに参加していただいた方に対して、終了後に行ったアンケートでは、芦屋港の取組への理解が高まった方が全体の6割以上、参加者自身の仕事への関係性や役立つ部分を感じた方が全体の6割以上となったことなどから、レジャー港化の機運の高まりや人材育成の観点からも、一定の成果があったと捉えています。

これらの活動において蓄積した結果については、今年度を実施する芦屋港活性化における官民連携導入可能性調査のデータとして活用したいと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

それでは地域の関係団体との連携は、必要不可欠であったと思いますが、そのような団体や事業者とどのような協議・連携を行ってきましたか。お伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

みなと準備室の業務を進めるに当たっては、地域の関係団体や事業者との連携は不可欠であり、これまで様々な形で連携を図ってきました。

芦屋港活性化機運醸成事業においては、芦屋町観光協会と連携し、インバウンド向けの体験型観光商品を開発することを目指し、検討やテストマーケティングを重ね、芦屋港をスタートして景観を楽しむサイクリングの観光商品化を実現することができました。

食文化に関するワーキングチームが実施したアンケート調査では、多くの町内飲食店関係者に御協力いただきました。

また、観光地域づくり法人、DMO設立に向けた検討においては、芦屋町観光協会などの地域団体との意見交換などを活発に行ってきました。

しかし現状といたしまして、連携して協議した結果が形となっていないものも多くありますので、今後はレジャー港化の進捗に合わせて、できるものから形にしていくことが重要であると考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1 番 長島 毅君

たくさん実行されていたのは、非常によく分かりました。

しかし町の事業である以上、町民にとって実感の持てる成果となっているかどうか、非常に重要な視点だと考えています。その成果が事業者や町民とどのように共有されたのか、お伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

みなと準備室の事業においては、外部人材が地域イベントへの参加や各種実行委員会などに参加し、町民の方々と直接対話する機会を設けることで、相互理解に努めてきました。

また多くの方々に御協力いただき、ワークショップやテストマーケティングなども実施してきました。

しかし先ほども申しましたが、現状としてその成果が形となっていないものもありますので、そういう意味においては、参加者にとって実感の持てる成果となっていないものもあるのではな

いかと感じております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1 番 長島 毅君

推進室とみなと準備室も、キャパの問題で2階と4階に分かれてしまい、非常に連携がとりにくそうで、かつ、みなと準備室の方々の顔もあまり見えませんでした。町としてどのように対応されてきたのか、反省点や改善の取組があったのならば、お聞きしたいです。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

議員御指摘のとおり、芦屋港活性化推進室とみなと準備室はそれぞれ2階と4階に分かれてありました。そのため定期的な業務スケジュール確認や、事業ごとの業務連絡等は行ってきましたが、十分な意思疎通が図れていなかったと感じる部分もあります。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1 番 長島 毅君

外部人材が単なる外注先ではなく、地域と行政の橋渡し役として機能していたかどうか。町としてその役割をどう支え、どう評価してきたのかを明らかにする必要があると考えております。

外部人材の活用は専門性を補うだけではなく、町の人と外部の人が一緒に取り組むという関係性の再構築の絶好のチャンスだと思っていましたが、その目的をどこまで落とし込めたのか、いま一度検証と見直しを求めるために次の質問をいたします。

要旨3に行きます。外部人材登用の課題と今後の活用方針について、どのように見直されるのかをお伺いいたします。

町では、これまでの芦屋町No. 1プロジェクトやこのみなと準備室のように、外部の専門人材を登用することで、新しい視点や柔軟な発想を政策に取り入れようという姿勢が見られ、この点については今後の行政に必要な方向性の1つだと認識しております。

先ほどの答弁で、その一方、現場では様々な課題もあったのは理解できました。外部人材と推進室職員との役割分担、町民との連携や共有など、今回みなと準備室における外部人材登用を通じ、課題も明らかになりました。

そこで質問いたします。今後外部人材の活用に関して、レジャー港化においては町としてどのような方針で臨まれるのか、お聞きいたします。

みなと準備室のような人材の登用は、一定の成果があったとの答弁がありましたが、ということは、今後も新しい登用で継続されるのかお伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

芦屋港レジャー港化においては、現状として新たな外部人材の具体的な登用予定はございませんが、事業の進捗状況等を考慮し、必要に応じて検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

ありがとうございます。これは、外部コンサルなどを活用する行政全体にも言えることだと思うのですが、芦屋町における今後の人材戦略において、地域とともに動く人材、町の力を高める仲間として外部人材を位置づけ、受入れ・活用・継承のサイクルを確立すべきだと思っています。特に地域との連携や町への浸透、また外部人材の知見を町職員へどのように還元・継承していくのかや、職員との役割の明確化など課題も見えました。

今後、町としては外部人材の登用をどのような方針で見直していくつもりなのか、具体的な改善の方向性などありましたらお伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

今回は、芦屋港レジャー港化における外部人材活用の考え方に関してお答えさせていただきます。

一般的に自治体が外部人材を活用する意義については、専門的な知識や技術の導入、柔軟な人材配置及び自治体職員に新たな視点やアイデアをもたらすことがあげられ、これらのことは結果として、創造的な問題解決や新しいサービスの開発につながり、住民サービスの向上に寄与するものであると言われています。

また課題については、適切な人材の確保、地域や組織との調和、そして業務の円滑な引継ぎな

どがあげられます。特に外部からの人材が行政の特性や業務内容を理解し、迅速に業務に適応することは容易ではないため、外部人材の採用に際しては事前に十分なサポート体制を整える必要があります。

みなと準備室においては、準備室と芦屋港活性化推進室との意思疎通が十分図れていなかったことや、事業内容の見直しのため管理運営組織に関する考え方も変更せざるを得なかったことなどにより、登用した外部人材が十分に能力を発揮できなかったという反省点があります。

このことから、現状としては新たな外部人材の具体的な登用の予定はございませんが、今後登用する際は外部人材を登用する側として、登用に関する方針・ビジョンを明確にし、その上で外部人材がその能力を十分に発揮できるための環境を整え、民間企業や専門機関からの人材確保を戦略的に進めていきたいと考えています。

またK P I（重要業績評価指標）を的確に設定し、外部人材登用後は定期的に評価を行うことで、登用した外部人材の業務貢献度の把握や必要に応じて業務改善につなげるといった、いわゆるP D C Aサイクルにより、外部人材登用を円滑に進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1 番 長島 毅君

今後将来的には、外部人材の活用が一過性のものに終わらず、より実効性の高い仕組みとなるよう町の未来にどうつながるのか積極的な検証と改善を求めまして、質問を終わります。

件名2に行きます。メタバース芦屋港の現状と費用対効果、今後の課題についてお伺いいたします。

令和5年3月2日、第1回芦屋町議会定例会初日において、Web3基盤構築業務委託などの質疑応答がありました。もろもろ答弁があり、この中にメタバースというワードが多々聞こえてきました。その中で今後メタバースの技術やプロモーション、云々という少し長い答弁がありました。その後ついに令和7年3月29日、世界的なオンラインゲーム、フォートナイトに芦屋港を模したステージが登場しました。

ちょっとお伺いしたいのですが、このメタバース芦屋港、遊んでみたという方、すみません、お手数ですが挙手してもらってもよろしいですか。（議場を見渡す仕草をする）2人、はい。分かりました。それではこれから質問、皆さんちんぷんかんぷんかもしれませんが、いきます。

3月29日にフォートナイトにメタバース芦屋港が登場しております。このステージでは、プレイヤーが魚釣り、サイクリングなどのミニゲームを楽しみながら芦屋港の魅力を体験でき、ゲームを通じて芦屋港の認知度を高め、実際の来訪を促進することを目的としております。

この取組は、地域の魅力を仮想空間で可視化し、来訪者の興味・関心を高めるとともに、観光・交流人口の拡大を図る、先進的な施策として注目しておりますが、事業開始から一定の期間が経過した今、その活用実績や費用対効果がどの程度のものか。また今後このメタバース空間をどのように維持・活用し、どのように課題を解決していくのか、町としての明確なビジョンが必要だと考えています。

しかし先ほども言いましたが、そもそもメタバース芦屋港が、一体何なのか理解していない人が多過ぎる印象です。このままの運用体制でいいものなのか、再度検証を促す意味でいくつか質問いたします。

要旨1いきます。メタバース芦屋港の現状について。

まだメタバース芦屋港に関しては、運用開始から数か月であります。この仮想空間は今や多くの自治体が続々と導入、または将来的に導入予定といった、非常に将来性のあるコンテンツだと思っています。芦屋町もよくぞここに目をつけ、しかもこの早期段階で運用開始に踏み切ってくれたことは評価いたしますが、ここからどう活用するのかが勝負なのではないかと思っております。町として今までにない全く新しく将来性のある試みに関しては、いかに最初にそこに目を向けさせるかの、スタートダッシュが肝心であると思っています。

まずは現在までの稼働状況、利用者数、アクセス数、コンテンツ更新頻度など、運用実態について現状をお伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

芦屋町では令和5年度から2年間をかけて、Web3基盤構築事業を実施し、世界的オンラインゲームであるフォートナイト上に、芦屋港一帯を舞台にしたメタバース芦屋港を、令和6年度に構築いたしました。

このメタバース芦屋港は、芦屋港を中心として芦屋町の観光の魅力を詰め込んだフォートナイト上のバーチャルステージで、プレイヤーは先ほど議員がおっしゃっていただいたとおり、魚釣り、サイクリングなど様々なミッションをクリアし、芦屋港エリアの魅力に触れることができるものとなっております。

令和7年3月29日にオープンし、2か月後の5月末までの稼働状況については、プレイ人数が延べ1,400人以上となっております。また新しいステージの追加などのコンテンツの更新については、今のところ行っておりません。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1 番 長島 毅君

私はこの年になると、もうあまりゲームはしないしゲーム機も持っていないので、これをやってみようと思って自宅のパソコンでチャレンジしてみました。それがインストールまでも非常に時間もかかり、スタートする前に少し煩雑な登録手続もあって、途中で諦めようと思いましたが、何とか時間をかけてスタートすることができたのですが、今度はメモリー不足といたしますか、中で動く人物、主人公がいわゆる動作不良に陥ってしまい、カクカク固まる、そして進む、カクカク固まるといった、やりづらい現象だったんですけど、何とか時間をかけると進めることができました。

申し訳ないんですけど、始めは一つも面白くなかったんですけど、進めていくうちに、先ほど答弁にもあったんですけど釣り、ビーチバレー、サイクリング、ボートレース、的当てなど、ミッションをクリアしながらポイントを稼いで、砂像エリアなどを開放していくんですけども、開放されたら砂像展が非常にリアルに展開されており、アッシーやサワランの砂像の説明や、歴史の説明、またクイズなどが出てきました。

本当に非常によく作り込まれていて、場所も地形も非常に芦屋町の地形がとてもリアルで、ミニゲームもやってみると、ある程度難しさもあって結構はまりました。ぜひ皆さんも一度挑戦してみたいんですけど。それで、そのゲームのミッションをコンプリートしたら、時間が夜になって、その夜の花火はなみかけ大橋から見る花火など、とてもきれいでですね、レジャー港全体も非常におしゃれな空間に出来上がっています。もちろん、仮想空間なので現実とのギャップが多々あるんですけども、これも芦屋港のPRのためですので目をつむりたいと思っています。

このメタバース芦屋港が世間に本当に広まっていけば、こんなきれいな海岸線や町並みがあるかもという期待を抱かせれば、実際に行ってみたいと思う人もさらに増えるんじゃないかと思いました。

S w i t c h などゲーム機以外での利用のしづらさ、例えば家庭用パソコンでの利用のしづらさやスマホでの利用の可、不可などは認識しておりますか。i P h o n e 対応など、スマホで利用可だと大きく利用者が増えそうかと思いますが、利用環境の現状はどのようになっていますか。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

メタバース芦屋港のPRありがとうございます。

御指摘のとおり、メタバース芦屋港はフォートナイト上でのバーチャルステージとなりますので、ダウンロードの際には、約150ギガとかなり容量が必要となります。スマホでの利用に関しましても、同様のギガの問題により、ダウンロードが難しい状況となっております。

また、フォートナイト自体がiPhoneに対応していないため、iPhoneでの利用は不可能となります。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

残念です。

それと設定しているターゲット層がいま一つピンときてないんですけれども、周知に関してお聞きしたいと思います。

メタバース芦屋港PRのポスターは、町内でちょくちょくですが見かけています。もっとこのスタートに合わせての周知に、大きく力を入れてもよかったのではないかと考えていますが、令和8年度のボートパーク開業までに、今後の周知・発信のアイデアなどがありますでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

メタバース芦屋港の周知につきましては、議員がおっしゃられましたとおり、町内外の施設でのポスターの掲示、そのほかに広報あしや、町のホームページはもとより、テレビ、新聞、YouTube及びインスタグラムなど様々な媒体を活用し、周知を図っております。

令和8年度開業までに、このような媒体でのPRと合わせて、メタバース芦屋港上でのイベント実施など効果的な施策を検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

では要旨2に行きます。費用対効果の検証についてです。

Web3基盤構築業務委託事業として多くの予算、たしか補助金含め3,800万円ぐらいだと思いますが、つぎ込まれておりますが、当該事業にかかった初期費用及び運用費用、並びにそ

れに対して得られた成果の検証はしておりますか。もしくは、今後していくのであればお聞きしたいと思います。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

Web3基盤構築事業に要した費用につきましては、先ほど申されましたとおり、2年間で総額で約3,800万円となっており、財源といたしましては約1,900万円が国庫補助であります、デジタル田園都市国家構想交付金となっております。

メタバース芦屋港はオープンから2か月しか経過していないため、詳細な費用対効果の検証には至っておりません。現状としては、延べ1,400人以上の方々にメタバース芦屋港を楽しんでいただき、ゲームをとおしてですが、芦屋港エリアの魅力に触れていただいていることは、一定の成果であると考えております。

しかし本事業に関する費用対効果の検証については、施設が開業した後の集客、関係人口数の増減など、総合的に判断し行っていきたいと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

レジャー港の開業も遅れております。開業キャンペーンなどの盛り上がりもまだない中、フォートナイトメタバース芦屋港のスタートを遅らすなどの見直しも、検討できたのではないかと考えていますが、3月29日の運用開始に踏み切った理由があれば教えてください。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

芦屋港レジャー港化においては、まず令和8年度にボートパークが開業予定となっております。メタバース芦屋港は、芦屋港レジャー港化PRの一助を担うものであり、ボートパーク開業のPRに必要でありますので、今年の3月29日に運用開始をさせていただいたものです。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

レジャー港本体の、開業時前後のPRも重要だと思います。このメタバース芦屋港を生かして、あと数年先を見据えてのPRも考えていて欲しいと思っております。メタバース芦屋港のように早めの検討をお願いしておきます。例えばアロハビズとかもお願いします。

ということで次の質問に行きます。

要旨3です。今後の運用方針と課題について。

ではスタートしてしまったので、今後が重要だと思っています。ここが一番の肝だと思っています。

今後のメタバース芦屋港の活用方針はどういったものか、先を見据えたインターネット基盤の投資という認識だが、将来的な活用の取組は考えておりますか。また町民や観光客の訴求力をどう高めていくのかお聞きいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

このメタバース芦屋港は、芦屋港レジャー港化を広くPRすることを目的としておりますので、今後も様々なツールを活用し、さらなる周知を図っていきたいと考えています。

またメタバース芦屋港を通じて、芦屋港レジャー港化に興味を持っていただいた方々などを対象といたしまして、コミュニケーションツールも併せて構築しております。このツールのメンバーは、ウェブ上での芦屋港でのイベントや企画について、コミュニケーションを図ることができ、みんなで出した意見をもとに、メタバース芦屋港上で造形物の作成や観光施策のアイデア出しなどを行うことができます。

今後はこちらも活用しながら、町への関係人口、交流人口の増加につなげていきたいと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

最後の質問です。

今年度は難しかったかもですが、非常にいいコンテンツだと思っていますので、花火大会やアควアシアンのプール、砂像展などの連携も考えて欲しいと思っています。

今後の維持費、更新体制の確保などにおける開業まで数年間の運用費は、どれくらいでしょう

か。また運営の企画、プランなど、具体的に何かあれば教えてください。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 志村 亮二君

お答えいたします。

メタバース芦屋港や、コミュニケーションツールに係る保守委託料につきましては、年間約260万円となります。また運営の企画、プランについては、今後の利用状況やコミュニケーションツールでのニーズなどを参考に検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

メタバースという新技術を活用した取組は、確かに話題性のあるものであり、将来性も期待されております。しかし導入ありきで継続するのではなく、その意義と費用対効果を検証し、町民にとって有益な投資であったかどうかを明確にすることが、行政の責務であると考えています。

今後メタバースという言葉は、世の中にさらに浸透していくと予想されますが、芦屋町は既に活用しているというアドバンテージがあります。無駄な投資にならぬよう、今後も芦屋町がメタバース界では一歩先んじていることを期待して、私の一般質問を終わります。

○議長 辻本 一夫君

以上で、長島議員の一般質問は終わりました。